

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：32699

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00411

研究課題名（和文）（流）血・バイオレンスのテーマに見る女性の自己構築：スパーク研究を中心に

研究課題名（英文）Their Bloody Projects: Violence and Identity in Fiction by Muriel Spark and Other Writers

研究代表者

澤田 知香子 (SAWADA, CHIKAKO)

学習院女子大学・国際文化交流学部・教授

研究者番号：00456493

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：主目的であるミュリエル・スパーク研究において、現代イギリス作家を取り上げる学術書シリーズ刊行企画のスパークの巻執筆の依頼を受け、執筆に着手した。日本人研究者としてグローバルな視点で研究を進展させるという研究計画に沿って、「バイオレンス」や「（流）血」をキーワードに女性の自己構築というテーマを中心にスコットランドやカナダの文学研究を進め、日本人作家への取材も行った。研究期間内の成果として、英語および日本語で口頭発表3件を行い、論文2編を発表したほか、スコットランド人作家ケヴィン・マクニール氏や芥川賞受賞作家の藤野可織氏を招いた講演などを企画・実施し、研究成果を教育の場に結びつける活動を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

20世紀を代表する英国作家の一人ミュリエル・スパークは英国の国民的人気作家イアン・ランキンやアリ・スミスら現在活躍中の作家たちに影響を与えたことがよく知られている。日本においてもイギリスの現代作家シリーズ出版企画にリストアップされる重要作家であり、日本人研究者としてのグローバルな視点からの多角的研究は英文学研究への貢献における意義がある。また、本研究はアイデンティティやジェンダーに関わる今日的テーマを「バイオレンスと（流）血」など独自のキーワードで追求し、その成果を、現役作家たちを招くなどした教育の場での議論や考察につなげている点でも有意義なものである。

研究成果の概要（英文）：This study considered the construction of female identity with the keywords such as "violence" and "blood(-shedding)" (also "body" and "home") mainly in Muriel Spark's writings. The result of this Spark research is to be reflected in the writing of a volume on her for the publication of an academic book series on contemporary British writers. In line with the plan to develop this research from a global perspective, various texts by Scottish, Canadian, and Japanese writers were analyzed, and interviews with some of those writers were conducted. In relation to this research, two articles were published and three papers were given at conferences, and several special lectures by writers such as Scottish author Kevin McNeil and Akutagawa Prize-winning author Kaori Fujino were held for students.

研究分野：現代英語圏文学とポストモダニズム

キーワード：ミュリエル・スパーク ジェンダーとアイデンティティ 英語圏の現代小説 バイオレンスと（流）血
home

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

今日のグローバル社会において物理的にも比喩的にも境界（線）というものの変容が進んできた。本研究に先立つ研究課題「“Home”を離れた女性たち：グローバル化時代のアイデンティティ」のタイトルが示すように、開始当初、この境界をめぐる問題として本研究が着目していたのはさまざまな境界線の崩壊や（主に女性による）越境のパワーである。これを経て、ときにはバイオレントに“home”や「血」のつながりを絶って自己というものを探求する個人のストラテジーを現代文学の提示する重要なテーマのひとつと捉えるに至った。この点で、自らを「自発的なエグザイル」と称したスコットランド、エディンバラ出身の作家ミュリエル・スパークのテキストは、同じくコスモポリタンな視点を持った同時代の作家ドリス・レスリングなどのテキストとともに、あらためて考察するに値するものであった。また、スコットランドで活躍する現代作家たちにも、マラキ・タラックの *60 Degrees North: Around the World in Search of Home* (2016) やカプカ・カサボヴァの *Border: A Journey to the edge of Europe* (2017) など、本研究テーマの一端につながるトピックを提示するテキストは少なく、本研究テーマの今日性を確認し、より広いパースペクティブでアプローチするためのヒントとなった。

時代の趨勢に加え、2018年はスパークの生誕百周年であり、現代文学に重要な足跡を残す作家の研究に日本人研究者として国際的視座から貢献することを目指す上で大事なタイミングを迎えていた。百周年を控えた2017年から、スコットランドの人気作家イアン・ランキンやアリ・スミスらが参加するようなスパーク関連イベントが開催され始める中、12月に行われたスコットランド国立図書館のエキシビションに招待され、参加が叶った。本研究テーマと呼応するかのように“International Style of Muriel Spark”と題されたエキシビションであった。これに続き、本研究開始に先立つ2018年2月1日、スコットランドのグラスゴー大学で行われた“Muriel Spark Centenary Symposium”に参加し、口頭発表“Sparkian Transgressors: They Decide to Go Missing”を行い、海外の研究者らとの意見交換、情報収集を実施し、本研究基盤を固めるとともに、そのテーマの妥当性を確認した。

2. 研究の目的

本研究「（流）血・バイオレンスのテーマに見る女性の自己構築：スパーク研究を中心に」は、ミュリエル・スパーク研究を基盤に、スコットランドの現代作家たちとより広い英語圏や日本の女性作家までを視野に入れ、「（流）血とバイオレンス」をテーマに今日のグローバル社会における自己構築の考察を目的とした。

（1）現代女性の自己構築のストラテジーを文学テキストの中に見いだすべく、グローバルな視座から多様なテキストにおける文学的表象を分析、比較検討することで、そうしたストラテジーを要求する、あるいは阻む、現代社会の問題についての議論を導き、あらたな可能性や条件を提示することを目指した。この自己構築の問題に関わっては、主に女性に注目しつつも、性別というものに囚われすぎることなくより広いテキスト研究を行うこととした。

（2）本研究の具体的な重要テーマとの関連において、スパークという作家のフィクションが、今日にも通じる重要問題をいかに明確に、いかに独自の形で露わにしているか論証し、生誕百周年を迎えた作家研究に貢献することを目的とした。

(3) これまでの研究活動を通して経験を重ねてきた、研究成果の教育現場への還元を試み続けることも目的とした。国内外の作家や研究者などを所属機関に招き、若い世代が考え、ディスカッションを行う場を設けて文学研究の成果を実社会に直接的に繋げたり、発信したりすることを目指した。

3. 研究の方法

資料収集・考察

本研究初年度は研究環境を整え、対象となる一次テキスト及び二次テキストの選定・収集とその分析を中心に行った。スパーク研究に関わる新刊、ジャニス・ギャロウェイ、グレアム・マックレーなどスコットランド現代作家を中心にアリ・スミスなどの現代英国作家を中心に、本研究で考察する作家の著書及び関連の研究書を検討した。スパーク研究については2018、2019年度にスコットランドの国立図書館でのアーカイブ調査を実施した。本研究のキーワードである「血」と「バイオレンス」のテーマに関連したテキストに広くあたる中で、マーガレット・アトウッドはもちろん、アレクサンダー・マクラウドのテキスト分析など、カナダ文学研究の比重が大きくなった。

学会・学術イベント参加と取材

2018、2019年度については英語圏文学研究およびスパーク研究の最新の動向を把握するため、国内外の学会やインターナショナル・ブック・フェスティバルにおいて情報収集や意見交換を行った。日本カナダ文学学会年次大会（平成30年度、於・名古屋）では上述のカナダの作家マクラウド氏から直接コメントを得ることができた。また2019年度のエディンバラ・インターナショナル・ブック・フェスティバルではスコットランドの作家ギャヴィン・フランシスとの意見交換、のちに映画化もされたミアム・トウズの *Women Talking* のパフォーマンス鑑賞など、本研究の考察の糧となる収穫を得た。研究の独自性を高める試みとして、2013年芥川賞受賞作家の藤野可織氏に、スパークの小説と共通のテーマを持つ同氏の短編小説などを中心に取り上げて取材を行った。

国内外作家の招聘

上記の研究活動の一端を口頭発表や論文の形で発信すると同時に、所属研究機関の教育環境に資するインタラクティブな研究活動を継続した。2019年度に英語圏の研究者招聘を企画・実施できるよう、2018年度から交渉を始め、スコットランドの作家タラックを招聘して講演を行う企画を進めた。先方の急なキャンセルにより、同じくスコットランドの作家であるケヴィン・マクニール氏にコンタクトを取り、企画を実現した。藤野氏による講演、特別授業も開催した。

4. 研究成果

本研究の計画に従って現代のスコットランドおよびカナダ文学へとテキスト分析の対象を広げ、独自のキーワードを用いて議論を深めた。

「バイオレンス」や「身体」のテーマでは、カナダの重要な文学賞を受賞して活躍中のマクラウド氏の著書について口頭発表を行い、2019年、それに基づく論文“Alexander MacLeod's Stories: Genius Loci in the Dark and in Decline”を発表した。2023年度、「女性の身体」というテーマをクローズアップして「老い」のテーマに絡め、2014年出版のマーガレット・アトウッドの短編集『ストーン・マットレス』について、スパークの『死を忘れるな』などとの比較を

まじえて「古い」を語るということに注目しつつ分析・検討を行い、論文「*Stone Mattress*におけるゴーストの声：老いの現実と語りの中で」を執筆した。

前述のように、本研究期間中に、日本文学・文化に通じ、詩人としてだけでなく小説家・脚本家として活躍し、文学賞審査などに携わっているマクニール氏（英国・スターリング大学）そして藤野氏を招聘し、学生のための講演やインタビューを実施した。

スコットランド国立図書館で継続的に実施していたスパーク・アーカイブの調査がコロナ禍で中断されたこともあり、本研究期間を通してカナダ文学研究の比重が幾分大きくなった。

本研究については、研究時間の不足、それに伴う所属機関の変更、新しい所属機関への移動と重なったコロナ禍などで当初の計画が大きく変わり、適応しきれないまま、設定した目標すべてをクリアできなかった反省がある。スパーク研究については、2023年度にアーカイブ調査を再開することができ、本申請課題の軸にある包括的スパーク研究が軌道に戻ってきた。現代イギリス作家を取り上げる学術書シリーズ刊行企画のスパークの巻執筆の依頼を受けたこともあり、本研究の成果を活かして執筆に取り組んでいる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 澤田知香子	4. 巻 25
2. 論文標題 Stone Mattressにおけるゴーストの声：老いの現実と語りの中で	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 学習院女子大学紀要	6. 最初と最後の頁 169-183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 沢田知香子	4. 巻 27
2. 論文標題 Alexander MacLeod's Stories: Genius Loci in the Dark and in Decline	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 カナダ文学研究	6. 最初と最後の頁 5-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 澤田知香子
2. 発表標題 「スパークを探して」
3. 学会等名 学習院女子大学学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 沢田知香子
2. 発表標題 Alexander MacLeod's Stories: Genius Loci in the Dark and in Decline （アレクサンダー・マクラウドの短編－錆びゆく土地の霊－）
3. 学会等名 日本カナダ文学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------